

【施策評価調査】

施策名	2-1-2	運動習慣づくり		85	楽しく身体を動かし、体力をつけます。 運動や身体活動の重要性を理解し、自分にあった運動習慣を身につけます。 ウォーキングやストレッチ体操を日常生活の中に取り入れ、身体活動を増やします。 ・生活習慣病の予防と改善のためには、正しい食生活と併せた運動習慣づくりが重要である。さらに、介護予防対策としても高齢者の筋力アップのため、手軽に誰でも、どこでもできるウォーキングやストレッチ体操の普及が必要である。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	住民生活部健康福祉課	担当	健康づくり		生活習慣病予防のため、住民、学校、保育園・幼稚園、行政が協力して、住民が気軽に運動できる環境の整備に努め、定期的に運動する習慣を促します。また、運動習慣が継続することにより、高齢者の筋力アップや転倒による寝たきり予防にも繋がります。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	特になし	リーダー	荻原敏子		

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：定期的に汗をかく運動をしている人の割合(%)	生活習慣調査-H16.9実施	計画	40.0%	43.0%	45.0%	47.0%	50.0%
	38.3%	実績	38.30%	31.60%	35.70%		
指標：筋力アップ事業参加者数(人)	H16年度実績	計画	340人	450人	560人	600人	700人
	211人	実績	989人	1,200人	1,711人		
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	150,000	206,000	298,000		
決算	135,744	196,968	252,000			

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
運動に関する普及啓発事業費	当初 298,000	各種運動教室参加者	A	ウォーキング教室修了者を中心に、高根沢町ウォーキング会を発足し、自主活動を開始することができた。参加者自ら指導者の資格を取り、積極的に会の運営に携わっている。会員が友人等を誘い、ウォーキングを広めていく活動が活発になることにより、運動習慣づくりにつながる。			
	決算 252,000	1,711人 / 560人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
教室に参加している人達は運動する機会が増えたと回答している人が多いが、全体のアンケートとなると、運動をしていると回答する人の割合はやや増加した程度である。教室等に参加した人達からは、身体を動かすことは楽しい、健康のために体を動かさなくてはという声は多数聞かれるが、継続となると難しいと感じる。	ウォーキング会という自主的なグループができたことにより、会が定期的に行事を開催するため、参加の機会が増えてくると思われる。会員が他の住民を誘いながら会員を増やしていくことにより、ウォーキングを継続する人たちが増えてくると思われる。	
■ 総合評価 ■ 健康づくりの観点から、積極的に施策展開されていると評価する。 ただし、後期計画策定に向け、現状のデータを広く分析した上で、きっかけから習慣に結びつけるために、どのような工夫を盛り込んでいくかがカギと思われるので、運動教室の一元化を図るなど、生涯学習課との新たな連携方法について検討、調整していくこと。		